

❁ 平成20年 年頭のご挨拶 ❁



松井大悟

JSTT日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されましたJSTTの理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力など地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、マッピング等に関する非開削技術情報の交流により、わが国の地下利用技術の進歩、および安全性の向上を図り、広く社会公共の福祉の増進に寄与すること」となっています。非開削技術は、現地盤を出来るだけ乱さない、建設発生土の減少による現況の維持が出来る、交通渋滞による経済的損失やCO₂発生量の抑制が出来る、工事中の景観の維持が保たれる等環境にやさしい技術であり、さらに交通事情や埋設深度等の条件により多くの場合開削工法に比べ経済的な工法です。国際非開削技術協会も広報においてこの両面を強調しています。この認識を広く世の中に受け入れていただくようJSTTは19年に及ぶ活動を続けてまいりました。この間次第に非開削技術の評価が高まりその採用が増加してきております。今後この評価をさらに高めるべく努力してまいります。

会員間の技術情報の交流のため、従来から季刊誌「No-Dig Today」の発行、技術研究発表会の開催、非開削技術見学会の開催、国際会議への出席、近隣諸国との交流、ホームページの充実を図っておりますがこれらをさらに充実させていきます。昨年の研究発表会におきましては15件の応募がありこれらを4部門に分けて発表していただきました。内容は非常に高度でかつ多くの分野をカバーし日本の非開削技術の状況が把握できる貴重な論文集が出来ました。会員の皆様に広く読まれることを期待しております。また過去のバックナンバーもそろえております。

季刊誌は従来から道路を管理されている方々に配布をいたしておりますが、今後さらに「道路を掘らない

技がここにある」をキャッチフレーズに、非開削技術の環境保全の役割について理解を得られるよう紙面の充実を図っていきます。

平成17年度より発足した「HDD工法委員会」は標準設計・積算資料を作成し利用者への広報を積極的に行っており、工法の普及を図ってきております。各分野で関心が増えている状況ですので、さらに促進して行きたいと思っています。

ホームページは国内・外国の情報をさらに充実させるとともに、インターネットを利用して推進工法の設計をサポートする「工法ナビゲーションシステム」の運用が本格化していますがさらに改築更新技術も加え充実を図っています。今年も会員の意向に沿った施策を行いたいと思っています。

昨年9月にイタリア・ローマで開催されたNO-DIG・2007において日本サイドより8編の研究発表が行われました。これは全体の発表数65編の12%に当たり高度技術に対する日本への期待が感じられました。

今年のNO-DIG・2008はロシア・モスクワで行われます。ロシアはBRICSの主要メンバーとして近年経済発展が著しく、また資源大国として世界において存在感が増しています。公共投資も盛んに行われ、非開削技術への関心も高いと聞いています。関心のある会員の参加を期待しております。

今年も気持ちを新たにして遠山名誉会長、石川、楠田、佐久田各副会長、理事の方々のご支援を得て協会の発展に努力をしていく所存です。日本におきましても、インフラの構築・維持のためには非開削技術の必要性はますます高まっています。会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい年こそ飛躍の年になることを祈念して私の挨拶といたします。